

ホクコーモミガード[®]C・DF

- 種類名：銅・フルジオキシニル・ペフラゾエート水和剤
- 有効成分：塩基性塩化銅-----7.6%
 - [銅として]-----4.5%
 - フルジオキシニル-----2.0%
 - ペフラゾエート-----12.0%
- 化管法指定物質：フルジオキシニル [第1種] -----2.0%
 - 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキ基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。） [第1種] -----1.2%

- 登録番号：第20868号
- 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
- 登録初年：2002.08.13
- 性状：淡緑色水和性細粒
- 有効年限：3年
- 包装：100g×100袋、5kg×2袋

【特長】

- フェニルピロール系殺菌剤フルジオキシニルと、種子消毒剤として定評のあるヘルシード、さらに細菌性病害に安定した効果を示す塩基性塩化銅を効率的に配剤した総合種子消毒剤。
- 水和性にすぐれるドライフロアブル製剤。

【適用内容】(2023年10月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルジオキシニルを含む農薬の総使用回数	ペフラゾエートを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
稲	ばか苗病 ごま葉枯病 いもち病	200倍	浸種前	1回	24時間種子浸漬	1回	1回	—
	もみ枯細菌病 褐条病 苗立枯細菌病 苗立枯病 (フザリウム菌) (リゾープス菌) (トリコデルマ菌)	7.5倍 (使用量は乾燥種籾1kg当り希釈液30ml)			吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきること。
- 種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種すること。
- 調整した薬液は、調整当日に使用すること。
- 浸漬処理の場合は、籾と処理薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、浸漬処理中に1~2回攪拌すること。
- 薬液の温度は極端な低温を避けること。
- 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥すること。
また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させること。
- 本剤の処理を行った種籾を浸種する場合は、次の事項を守ること。
 - ◆ 浴比は1:2とし停滞水中で浸種すること。
 - ◆ 水の交換は原則として行わないこと。但し、水温が高い場合など酸素不足になる恐れがあるときは、初めの2日間は行なわないで、その後静かに換水すること。
 - ◆ 浸種は停滞水中で行い、河川、湖沼、ため池等では行わないこと。また、残液、廃液はかんがい水路、排水路等に流さないようにすること。
- 処理した種子は、その旨を明示し、食品などとは区別して保管し、食用、動物用飼料として用いないこと。
- 使用済みの空袋、薬液の調整容器、種子処理に使用した容器、器具などは水でよく洗浄し、その洗浄液はかんがい水路、排水路、河川、湖沼、井戸などの水系へ流さないように始末すること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 薬液調整時及び使用の際は保護眼鏡、不浸透性手袋などを着用すること。使用後は洗眼すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理すること。
浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に食品と区別して、密封して保管すること。